

本 編

第1章 調査の概要

1. 国土施策創発調査全体の概要

(1) 調査の名称

「維持・存続が危ぶまれる集落の新たな地域運営と資源活用に関する方策検討調査」

(2) 調査の趣旨

我が国全体が人口減少社会に突入した現在、特に農山漁村地域においては著しい人口減少・高齢化の進行により、地域としての自立や維持が困難になる集落の存在などが危惧されており、新たな地域社会を維持・形成する仕組みや社会的サービスの提供方策を検討し、国土の適切な利用・保全の観点から集落の維持を図っていくことが求められている。

さらに、国土形成計画に係る審議の中では、地縁型のコミュニティを中心として近隣集落、事業者、NPO等の集落内外の多様な主体と連携を図りながら「新たな公」の考え方に立った新しい協働の仕組みを構築することが必要とされている。

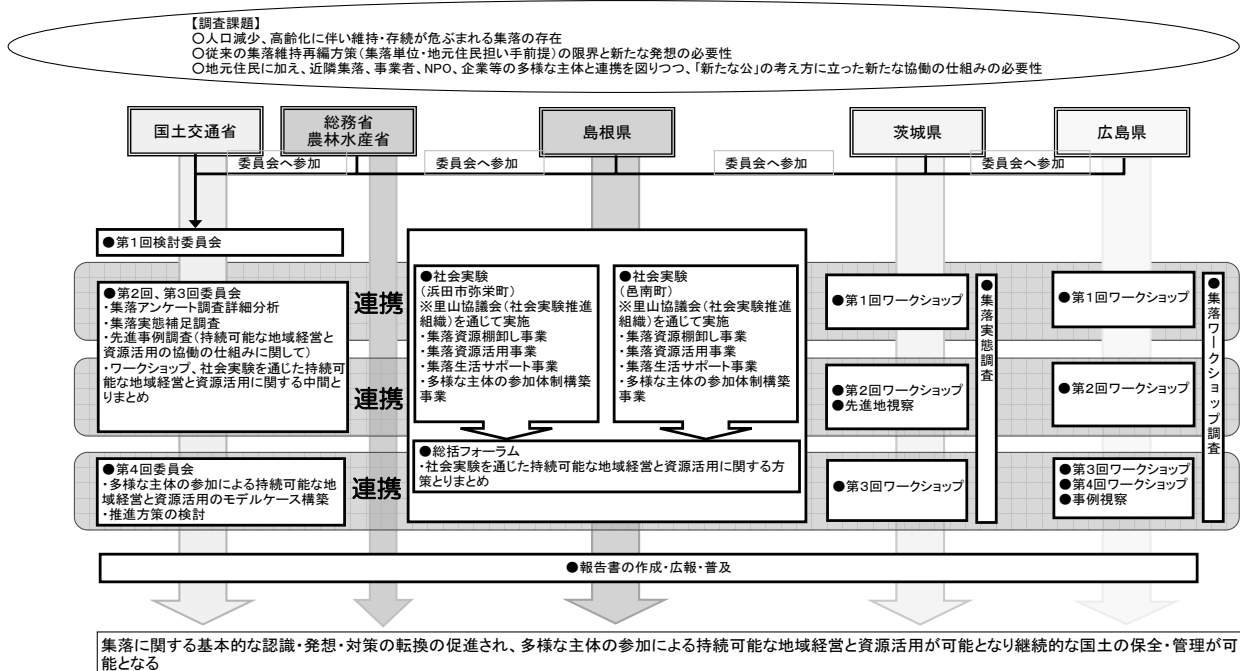
この調査は、こうした状況を踏まえた上で、維持・存続が困難になりつつある集落の特性を的確に捉えるとともに、集落機能の維持に係る先進事例調査や島根県・茨城県・広島県におけるフィールド調査等を通じ、集落の維持に向けた新たな地域運営と資源活用に関する方策を検討し、多様な主体の参加による集落の維持方策のあり方について検討しようとするものである。

(3) 調査体制

実施主体：国土交通省、総務省、農林水産省、島根県、茨城県、広島県

(4) 調査のフロー

維持・存続が危ぶまれる集落の新たな地域運営と資源活用に関する方策検討調査フローチャート



(資料出典:国土交通省資料を基に作成)

第2章 広島県における集落ワークショップ調査

第1節 集落ワークショップ調査の概要

1. 集落ワークショップ調査の目的

県内過疎地域における、小規模化・高齢化が進む集落を抽出し、持続的な地域運営のあり方を探ることを目的として、ワークショップ（実施時期；平成19年10月～平成20年3月 住民向けには、「地域づくり座談会」と称した）を開催した。

2. ワークショップの概要と特長

(1) ワークショップの概要

ワークショップとは、地域の問題を多くの住民が年齢や社会的立場に関わらず、水平的な関係で話し合い、創造的に自己解決をしていくための「話し合い・活動の場」とされる。

相互の意見交換などを通じて、異なる価値観を持つ住民が、新しい価値観や相互関係を創造するとともに、アイデアに基づいた具体的な活動を誘発していくことが期待され、近年、住民協働を促進していくための手段としても注目されており、盛んに取り組まれるようになってきている。

(2) ワークショップの特長

ワークショップの特長としては、次の点が挙げられる。

① 参加者相互の意思疎通の促進や連帯感が高まる

年齢や社会的立場に関わらず、自由な雰囲気の中で意見交換ができることで、参加者相互の意思疎通の促進や連帯感を高める効果がある。

② 「気づき」を促す

個々人が日頃から感じていることも話題として取り上げることができ、一人ひとりの新たな発見や「気づき」を促すことができる。

③ 新たなアイデアが期待できる

様々な価値観や意見を許容することによって、創造的な知恵や新たなアイデアが期待できる。

④ 主体的な取組みの気運が高まる

参加者が公平に意見を述べることができるため、参加意識が高まり、主体的なまちづくりに向けた気運の高まりが期待できる。

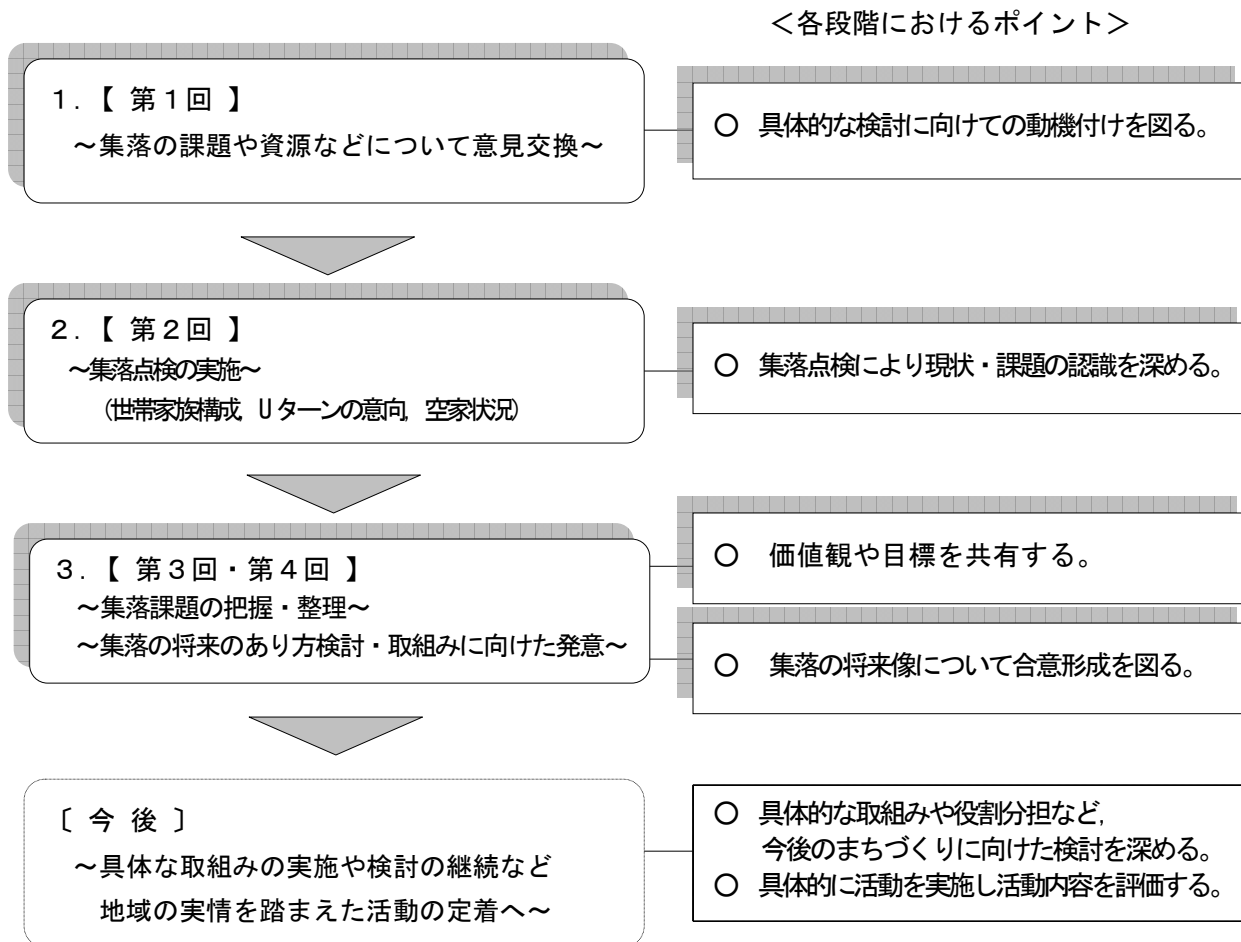
⑤ 価値観の共有や合意形成が促される

ワークショップの議論を通じて、価値観や目標の共有、まちづくりに対する参加者の合意形成が促される。

⑥ 自主的で持続的な取組みにつながる

ワークショップを契機に新たな活動が始まる場合も多くみられ、自主的で持続的なまちづくり活動につながることを期待できる。

3. 集落ワークショップ調査の流れ



【参考】

- ・ワークショップを効果的に進めるため、事前に住民に対するアンケートや説明会を実施。
- ・また、まちづくりに対する気運の醸成を図り、今後の検討や取組みの参考とするため、事例調査や全体報告会（ワークショップ発表会）を開催。

第2節 調査対象自治体・地区の概要

1. 調査対象自治体の概要

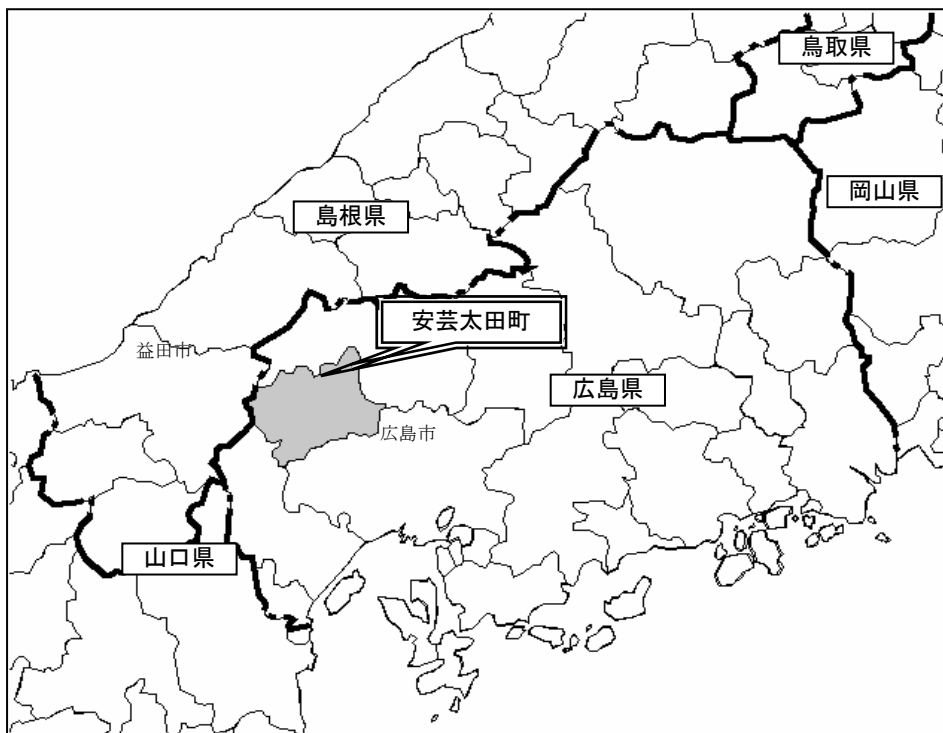
本調査の対象地区のある安芸太田町は、広島県の北西部に位置し、島根県と接する県境の町で、平成16年10月1日に加計町、筒賀村および戸河内町の三町村の合併により発足した。

面積は342.25k㎡でそのうち88.3%を森林が占め、西中国山地国定公園や県境にある広島県最高峰の恐羅漢山（標高1,346m）など、豊かな自然環境に恵まれている。集落や耕地は一級河川太田川流域に集中している。

本町は、日本海と瀬戸内海の間位置する内陸山地で、夏季の集中豪雨や冬季の豪雪などが生じることもある。

主要道路は、中国縦貫自動車道を始め、山陰・山陽を結ぶ国道186号と191号などがある。

図 安芸太田町の位置



① 人口・世帯構成

平成17年の国勢調査で世帯構成をみると、世帯数3,318に対し、65歳以上の高齢者のいる世帯は2,233世帯で67.3%を占めている。また、65歳以上の高齢単身世帯は666世帯で20.1%、高齢夫婦世帯（夫が65歳以上、妻が60歳以上の世帯）は687世帯で20.7%を占めている。

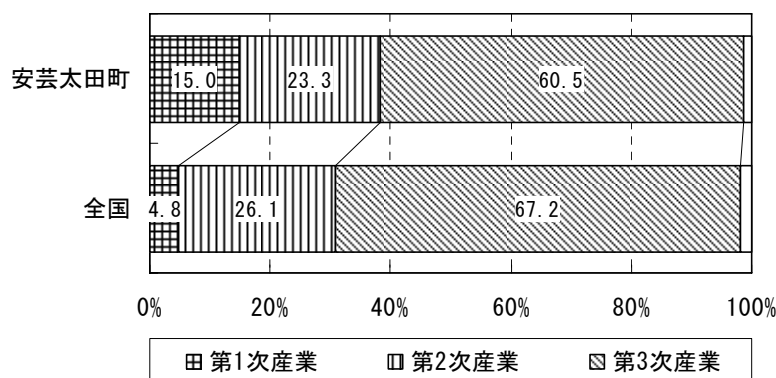
② 主な産業・地域特性

安芸太田町は、近世には砂鉄と豊富な森林資源を利用した「たたら製鉄」や「紙すき」が主要産業であり、太田川は木材や山県鉄の運搬ルートとして重要な河川であった。

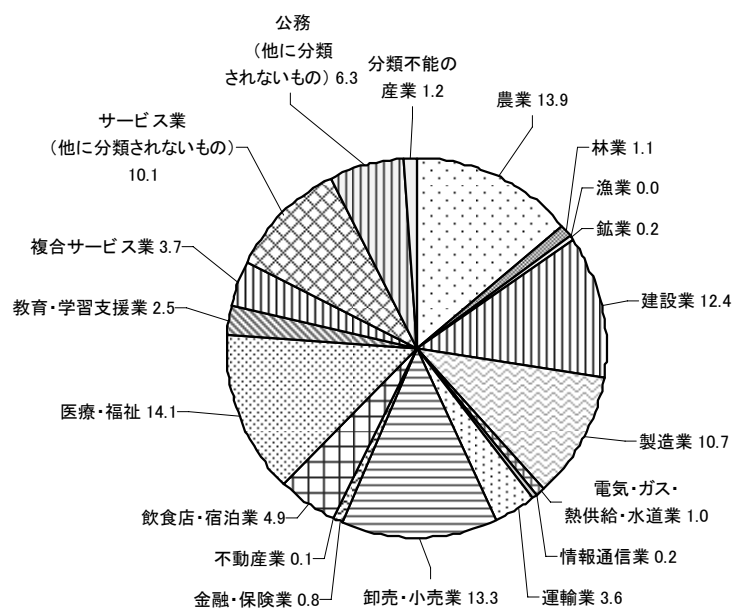
就業者ベースの産業構造をみると、第3次産業が約6割を占めてはいるが、全国と比較するとその割合は低いことと、第1次産業が15.0%で全国の4.8%を大幅に上回っていることが特徴となっている。

産業大分類別にみると、医療・福祉が14.1%で最も高く、次に農業が13.9%、以下、卸売・小売業が13.3%、建設業が12.4%、製造業が10.7%となっている。

図 安芸太田町の産業構造



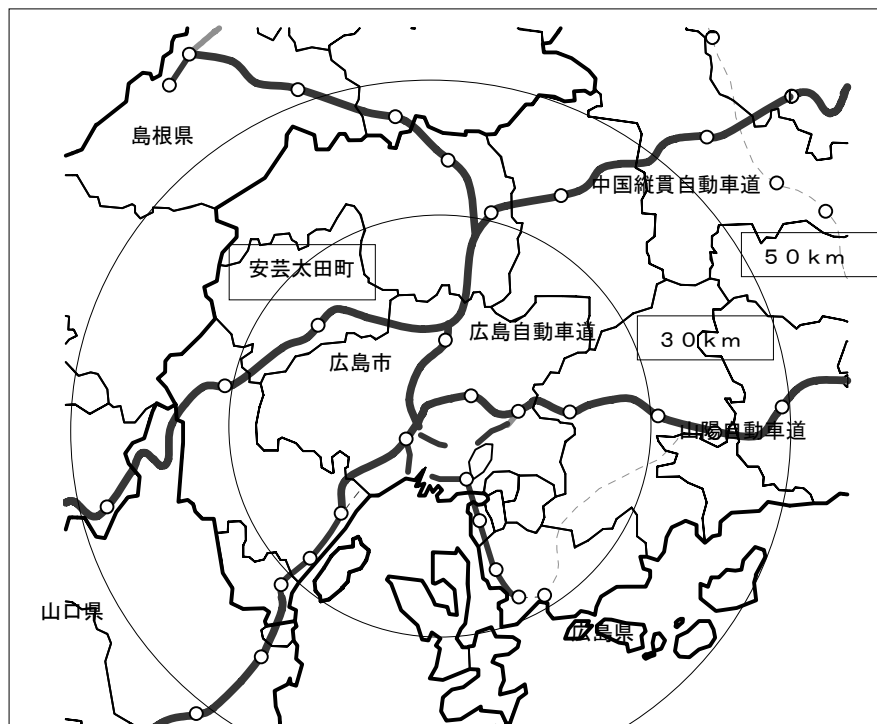
(産業大分類別構成比)



資料：総務省「国勢調査報告」

また、広島市に接しており、市中心部から直線距離にして約 30 km、高速道路（中国縦貫自動車道・広島自動車道・広島高速 4 号線など）の利用により、約 1 時間の圏内にあることから、広島都市圏の観光・レクリエーションエリアとして、都市住民との交流が多い地域である。町内には、国の特別名勝・三段峡をはじめ、アーチダムとしては黒部ダムに次ぐ高さを誇るぬくい温井ダム、森林公園を中心とした「交流の森」などの自然を生かした多彩な観光資源がある。

安芸太田町の位置



国の特別名勝 三段峡



ぬくい
温井ダム

2. 調査対象地区の概要

(1) 打梨・那須・吉和郷地区

① 立地・地形

打梨・那須・吉和郷地区は、安芸太田町の西部に位置し、打梨集落、那須集落、吉和郷集落の3集落で形成されている。

吉和郷集落は安芸太田町役場に近接する集落で、国道191号から分岐した県道吉和戸河内線沿いにある。吉和郷集落から8km程度進んだところに打梨集落、さらにそこから分岐した町道を進んだところに那須集落がある。

この地区は太田川の源流域沿いに立地しており、上流には立岩ダムがある。

② 世帯・人口・高齢化率

打梨・那須・吉和郷地区は52世帯、人口102人であり、高齢化率は58.8%と、半数以上が高齢者となっている。他の2地区と比較すると、世帯数、人口は最も多く、高齢化率も最も低くなっている。

しかし、集落別にみると、打梨集落は5世帯12人で高齢化率は91.7%、那須集落も12世帯17人で高齢化率94.1%と、ともに非常に小規模化・高齢化の進んだ集落となっている。吉和郷集落は、35世帯73人で高齢化率は45.2%であり、他の2集落と比較すると規模が大きく高齢化もそこまで進んでいない。

表 打梨・那須・吉和郷地区の世帯・人口・高齢化率 (平成19年10月現在)

集落名	世帯数	人口 (人)		高齢化率 (%)
			内65歳以上	
打梨	5	12	11	91.7
那須	12	17	16	94.1
吉和郷	35	73	33	45.2
合計	52	102	60	58.8

資料：安芸太田町資料

③ 地域の特色など

打梨・那須・吉和郷地区のうち、打梨集落、那須集落は、かつては木工芸や漆器などの生産が盛んな地域であったが、現在は、小規模化・高齢化の進んだ集落となっている。こうした状況に対し、3集落共同でのまちづくりの取組みとして、近年「結(YUN)プロジェクト(YUNは吉和郷(Y)、打梨(U)、那須(N)のそれぞれの頭文字をとったもの)」が発足した。結(YUN)プロジェクトでは、高齢者と若い世代が協力して、ひまわりを栽培し、その種からひまわり油を作るなど「ひまわりの里づくり」に取り組んでいる。これらの取組みを通じて、住民相互の意思の疎通を図り、山里に活力をよみがえらせようと活動している。

(2) ^{さかばら}坂原・^{ぬのはら}布原・^{おおい}大井地区

① 立地・地形

坂原・布原・大井地区は、坂原集落、布原集落、大井集落の3集落により形成される地区で、安芸太田町の南西部に位置し、戸河内ICより国道186号を約9km進んだところにある。坂原集落、布原集落は国道186号沿いに立地しており、大井集落は国道186号から少し離れた高台に位置している。

この地区は周囲を山に囲まれ、多くの小さな溪流を有している。

② 世帯・人口・高齢化率

坂原・布原・大井地区は40世帯、人口76人であり、高齢化率は68.4%と、7割近くが高齢者となっている。他の2地区と比較すると、高齢化率が最も高い地区となっている。

集落別にみると、布原集落は5世帯6人で高齢化率は83.3%、大井集落も5世帯10人で高齢化率は70.0%と、ともに非常に小規模化・高齢化の進んだ集落となっている。坂原集落は30世帯60人で規模は他の2集落よりも大きいですが、高齢化率は66.7%であり高齢化がかなり進んでいる。

表 坂原・布原・大井地区の世帯・人口・高齢化率 (平成19年10月現在)

集落名	世帯数	人口 (人)		高齢化率 (%)
			内65歳以上	
坂原	30	60	40	66.7
布原	5	6	5	83.3
大井	5	10	7	70.0
合計	40	76	52	68.4

資料：安芸太田町資料

③ 地域の特色など

かつては、林業を中心とした地域で、木材や木炭などを広島市などの都市部に供給してきた地域である。

地形上の特性から、これまで度々水害に悩まされてきており、より安全に暮せる環境づくりを望む声が多くなっている。また、冬季の積雪も多い。

なお、これらの3集落は、合併に伴って1つの行政区に再編されたため、3集落での地域づくり活動は始まったばかりである。

(3) ^{そらだに}空谷地区

① 立地・地形

空谷地区は、安芸太田町の東部に位置し、国道191号から分岐する北広島町に向かう県道澄合豊平線を4km程度進み、さらに町道を進んだ高台に位置する。

この地区は、標高700m程度の山に囲まれ、太田川の支流西宗川のさらに支流沿いに形成されている。

② 世帯・人口・高齢化率

空谷地区は36世帯、人口66人であり、高齢化率は60.6%と、6割以上が高齢者となっている。他の2地区と比較すると、世帯数、人口が最も少なくなっているが、高齢化率は坂原・布原・大井地区よりも低くなっている。

集落別にみると、横山集落以外は10世帯を下回っており、人口も香郷集落、名護木集落で10人以下となっている。特に名護木集落は2世帯3人で、うち2人が65歳以上という状況である。

表 空谷地区の世帯・人口・高齢化率 (平成19年10月現在)

集落名	世帯数	人口 (人)		高齢化率 (%)
			内65歳以上	
よこやま 横山	13	27	16	59.3
かごう 香郷	6	9	6	66.7
なごぎ 名護木	2	3	2	66.7
せんぼん 千本	8	16	10	62.5
のかげ 野影	7	11	6	54.5
合計	36	66	40	60.6

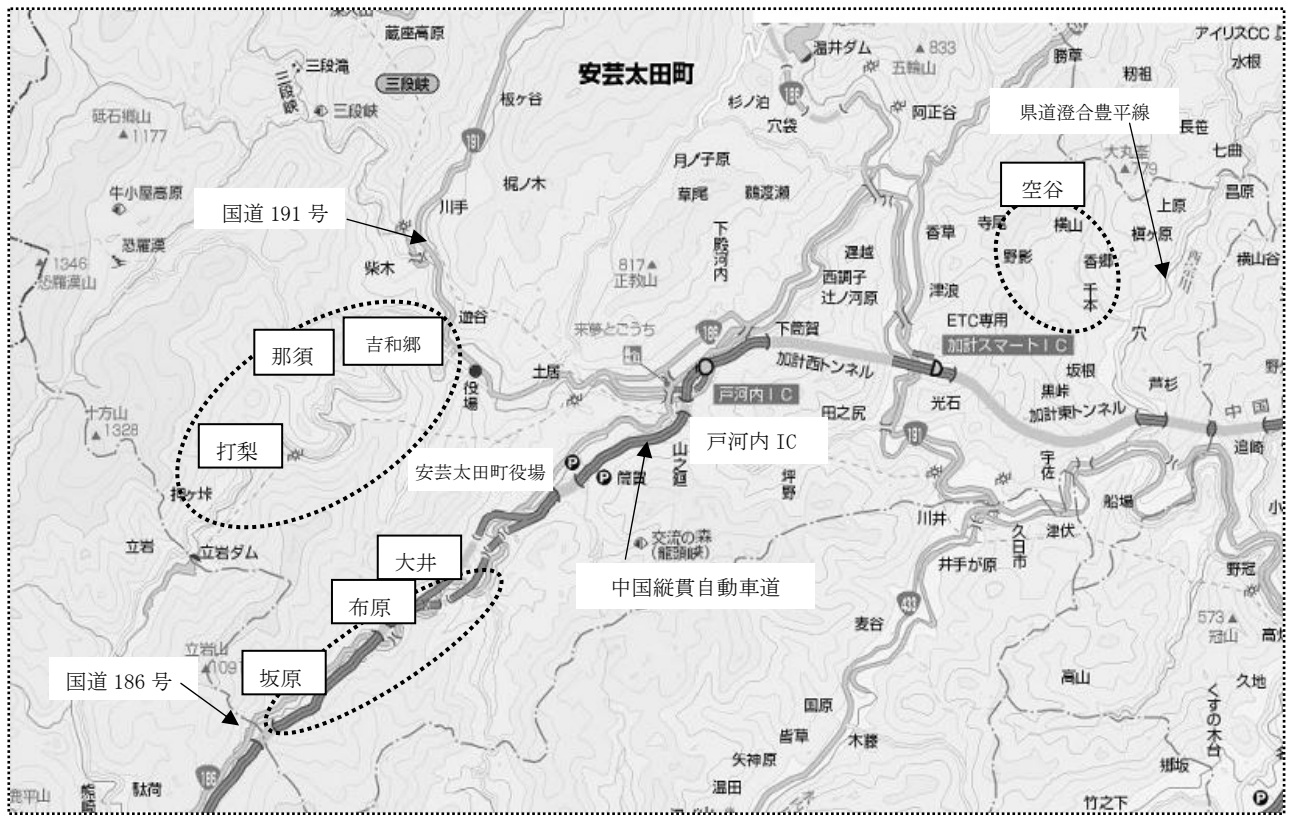
資料：安芸太田町資料

③ 地域の特色など

空谷地区は、かつて「たたら製鉄」などが盛んな地域であったが、「たたら製鉄」が衰退した明治以降は、棚田による農業や林業などが中心的な産業となっていた。

近年では地域の再生を目指した「空谷を考える会」が結成され、様々な地域づくり活動が取り組まれている地区である。

3. 調査対象地区の位置図



第3節 各地区におけるワークショップの状況

1. ワークショップ説明会

各地区でワークショップを開催する前に、住民一人ひとりの意識を高めるため、ワークショップ説明会（基調講演、安芸太田町内の事例紹介、意見交換など）を行った。

ワークショップ説明会では、県内の先進地域における自治振興組織の現状と可能性に関する話題が提供され、地元パネラーが意見交換を行った。

また、地域活動においては、住民の話し合いなどをきっかけに、住民の発意による主体的な取り組みや、誇りを持つことが重要であることなどが示された。

【開催概要】

タイトル：みんなで考えよう 地域のこと／一人ひとりが、まちづくりに取り組む会

日時：平成19年10月22日（月）14：00～16：00

場所：安芸太田町役場 東館 大集会室

参加者：集落住民、社会福祉協議会、住民団体、町、県、
外部進行調整役（ファシリテーター）

参加者約60名

《基調講演》

県立広島大学 経営情報学部教授 よしかわ とみお 吉川 富夫 先生

—中山間地域の集落に伝わる「近隣自治組織」の可能性—

《パネルディスカッション》

◇話題提供 ※各地域や団体での取組事例等の発表

安芸太田町社会福祉協議会 ～小地域福祉活動の取組み～

安芸太田町（財）松原自治会 ～自治会活動の現場から～

安芸太田町役場 ～地域担当制など住民自治への取組み～

◇住民との自由な意見交換



基調講演の様子



意見交換の様子